



みどり

令和5年6月30日
調布市立緑ヶ丘小学校
校長 鳥居 圭

E-mail midorigaoka-sho@chofu-schools.jp

『ひとつぶひとつぶ、こっこつと』

校長 鳥居 圭

子供たちが育てているピーマンやトマト、オクラ、キュウリなど、夏野菜が太陽の光を浴びてすくすく成長しています。令和5年度が始まり3ヶ月。はやいもので、今年のカレンダーも残り半分となりました。梅雨も明け、暑さが増し、熱中症が心配なこの時季ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、江戸時代の学者である新井白石にまつわる逸話に、「一粒の米」という話があります。白石は、徳川幕府の中心となって大きな仕事をした人です。(彼の行った「正徳の治」の是非については、近年評価が分かれているところが面白いです。)この新井白石は少年の頃、朝から晩まで遊び惚け、全く勉学に励む様子を見せませんでした。それを見かねた白石の父親はあるとき、白石に重い米びつを持ってこさせ、こんな話をして諭したそうです。

「この一粒の米を、大きな米びつ(米を入れておく入れ物)の中から取っても、取ったかどうかは分からない。けれども、一年間、毎日、一粒ずつ取ったらどうなる?きっと、少なくなったことが分かってしまう。同じように、一粒入れても増えたかどうか分からないが、一年間、毎日一粒ずつ入れていくと、増えたことがはっきり分かるようになる。これと同じことがおまえの勉強や習い事にも言えるのだ。一日だけ勉強したり習いごとをしたりしても、すぐに利口になったり、上手になったりするものではない。逆に、一日怠けたからといって、翌日、すぐに馬鹿になったり下手になったりするわけではない。けれども、毎日、毎日、ほんの少しずつでも努力を続けると、一年後には、利口になったり上手になったりしたことがよく分かる。逆に、毎日、勉強しなかったり習いごとをしなかったら、気が付くと、いつの間にか分からなくなったり、下手になったりしてしまう。毎日勉強や習い事をしてきた人と、大きな差がついてしまうのだ。」

父親の話聞いて以降、白石は一粒の米粒を机の上にお守りとしていつも置き、怠けようという心がおきたとき、その米粒を見て自分を励ましたそうです。継続することの大切さを分かりやすく我が子に伝えようとした白石の父、それを受け止め行動に移した白石、どちらも偉いなあとと思います。

夏休みの過ごし方にも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。子供たちにとって楽しい夏休み。今までの学習や生活を見つめ直し、2学期に備え志を新たに準備する絶好の機会です。得意な学習を伸ばす、苦手な学習を克服する、家の手伝いを決めて継続するなど・・・ともすると朝起きる時刻がどんどん遅くなり、規則正しい生活ができなくなる様子が見受けられがちな夏休みですが、気持ちが負けそうになってしまいそうになったときは、この一粒の米の話を出し頑張ってみてほしいものです。何か続けられるものを見つけ、この夏休み中に続けられれば必ず得るものがあります。継続できるものは、2学期が始まってからも続けられるとさらにすばらしいと思います。

夏休みは、7月21日(金)から8月28日(月)までの39日間です。この期間どの子ども、健康に安全に気を付けて元気に過ごしてほしいと思います。特にけがや事故に巻き込まれないように、交通ルールの厳守や不審者に会わないように、ご家庭でも話し合いをお願いいたします。

皆様、素敵な39日間を過ごしてください。そして、くれぐれも熱中症には十分気を付けてください。一まわり大きく成長した子供たちに、夏休み後再会できることを楽しみにしております。